

小池 宏明 牧師

「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだからです。」
(5:3)

* 幸いなるかな

ここでイエス様が語る「幸い」とは、ギリシャ語の「マカリオイ」という言葉が使われている。神様に祝福されている状態を表している。本当の幸せは、主なる神様との関わり合いで決まってくる。しかも、原典では、「マカリオイ」が文の先頭に来て「幸いです」が強調されている。

主なる神様から、変わることはない祝福を受け続けて生きる人々は、どういう人だろうか。

* 心の貧しい人々とは

3節の「心の貧しい」人々の「心」という言葉は、たましいや霊を指す言葉である。さらに「貧しい」とは、「極度の貧しさ」を表す言葉が使われている。破綻状態、悲惨なマイナス状態である。霊的極貧者とは「神様がおられない」、「神様が生きて働いておられる方として、仰ぐことができない」人々のことを言う。ここには、私たち人間と主なる神様との関わり合いを阻んでいる罪の問題が横たわっている。これは愛の欠如とも言える。人は神をも隣り人をも本当の意味では愛せないのである。

* 主イエス・キリストの十字架の愛

しかし、主イエス・キリストは、そんな貧しさを、じっとご覧になって、「あなたは幸いです」、「あなたには神の祝福がある」と語られた。「心の貧しい者は幸いです。」主イエス様は、この祝福の言葉を語るために、いのちを注ぎだして下さった。続いて、主は「天の御国はその人たちのものだからです。」と約束し、霊的な破綻状態を知る人々に、力強く臨んで下さった。そして、主なる神様は、ご自身のご愛をもって、霊的な貧しさを、罪深さを、埋めて、覆って下さる。このためにこそ、キリストの十字架の犠牲が起きたのだ。この十字架の愛に覆われて、霊的な貧困を変えていただくとき、私たちは、罪赦され祝福された者として再出発するのだ。愛の欠如、罪深さ、霊的な貧しさの極みの中でうずくまって、嘆く他ない生活から「こんな私も立ち上がることができる！」と、主なる神様との関わり合いによって、積極的な生活に、私を創り変えて下さる。もう一度、一人ひとり、主の御前に出て、心を探って頂こう。心の貧しい者、霊的に欠乏している者とは、神の愛に飢えている者、神の愛に背を向けている者だ。しかし、主はそんな貧しい者に御声を掛けてくださり、呼び出し導いて下さった。主は真に憐れんで下さり、救い出して下さり御国の約束さえ与えて下さった。主なる神様なしには一瞬たりとも生きていけない者であることを自覚して、「主に頼って生きていきます」とはっきりと告白して歩んで生きよう。